

国際交流つうしん



P.5 語学ボランティア講座 ～見浜園～



P.6 四街道市取材（アリアンレストラン）

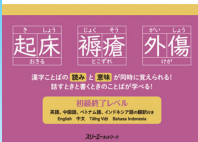
目次

- P.2 カルロスさんに聞く ～日本の学校体験談～
- P.3 日本語を母語としない親と子どものための進路ガイダンス（取材）
- P.4～5 事業報告（令和3年7月～10月）
今後の行事予定
- P.6 まちで見つける世界の扉 ～四街道市編～
- P.7 JICA千葉デスクのページ
- P.8 世界からようこそ千葉県へ ～お国紹介 ウクライナ

広告

「日本語を教える」としたら **スリーエーネットワーク**

上下ルビで学ぶ
介護
の漢字ことば



にほんごの会企業組合 著
本体1,650円(税込) B5判

最新刊や教材の使い方セミナーの情報等は <https://www.3anet.co.jp/>

介護に関わる**外国人**の
ための**日本語教材**

好評発売中

上下ルビで学ぶ
介護の漢字ことば

日本語初級終了
レベルから使える

介護場面の基本の漢字語373語を収録。漢字語の上に読み方、下にやさしい言い方(意味)をまとめ、わかりやすく提示しました。介護関連職を目指す方、現場で働きはじめたばかりの方におすすめです。

広告

入管手続きは行政書士にお任せ下さい。

申請取次行政書士に申請依頼をすると、申請人本人は
出入国在留管理局への出頭が免除されるので、**仕事や学業に専念**することが可能です。

お問い合わせは…



千葉県行政書士会

www.chiba-gyosei.or.jp/

〒260-0013 千葉県千葉市中央区中央4丁目13番10号
TEL: 043-227-8009 FAX: 043-225-8634



カルロスさんに聞く ～日本の学校体験談～

文部科学省の「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」（2018 年度実施、2020 年 1 月公開）によると、全国で 5 万人以上、千葉県では 2 千人以上の児童生徒が日本語指導を必要としているそうです。もしかしたら、皆さんの近所の学校にも、日本語を母語としない児童生徒が通っているかもしれません。日本の学校は、彼／彼女たちにとってどのような場所なのでしょう。日本語が分からないまま来日し、日本の中学校に通った経験のある上村カルロスさんにお話を伺いました。

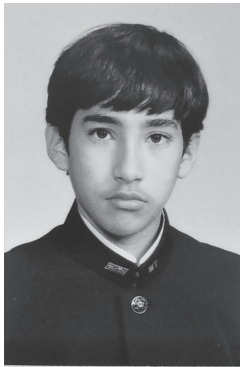
■上村さんが来日されたきっかけを教えてください。

日本に出稼ぎに来ていた父と暮らすため、日本語は全く分からない状態で、中学 2 年生の時に来日しました。母と弟たちはペルーに残り、父と 2 人での生活が始まりました。

父から、「日本人はみんな優しいよ」、「日本の中学校は自転車通学できる（ペルーでは一般的ではない）」、「日本の学校は最先端だよ」など、日本での生活がいかに素晴らしいかという話を聞き、父の言葉に説得されて来日する決断をしました。

■日本での中学校生活はどうでしたか？

日本に来てから、実は父がアパートと工場の往復の毎日で、日本の学校のことを何も知らなかったということが分かりました。父は、日本には「通学区域」があることも知らなかつ



ホアン・カルロス・ウエムラ

中学時代のカルロスさん

たし、制服が高いことも知らなかつたし、日本の中学校は 3 年間で、その後高校に進学するには受験があるということも知りませんでした。

外国出身の私にとって、学校生活は大変でした。外国人が珍しかったので、中学校でも「ガイジン、ガイジン」と言われたり、いじめられたりして、半年くらいクラスメートの誰とも話さない時期もありました。当時、私の通った中学校に外国人を受け入れる体制もなく、頼れる人もいませんでした。

■中学卒業後の進路はどのように決めたのですか？

父は、中学校卒業後は進学せず、就職したほうが良いと考えていました。私は、日本ではほとんどの人が高校に進学すると聞いていたので、進学を希望し父を説得しましたが、お金がかからないことが進学の条件と言われました。父はお金を貯めていずれ帰国するつもりだったので、教育にあまりお金を使いたがりませんでした。今思えば、お金を借りるなどの手段もあったと思いますが、当時は情報がありませんでした。

日本の教育システムを知らなかつたし、選択肢も情報も少ない中での進路選択でした。

日本に来て 1 年でしたが、ボランティアの教室で紹介してもらった大学生に日本語を覚えてもらい、なんとか高校に進学することができました。

■高校進学後はどうでしたか？

やっと日本語も覚えて日本の生活に慣れてきた高校 2 年生の頃、父がペルーに帰国しましたが、私は一人日本に残りました。友だちもできて、自分がどこかのグループに属しているということは嬉しかったです。

高校卒業後は、就労についての知識がなく、社会保険などが天引きされず手取り額の多い非正規採用で工場に勤めることにしました。弁護士になりたいという夢があったのですが、希望を聞いてくれる人も、相談できる人もおらず、経済的な事情もあり大学に行くことはできませんでした。

工場勤務、ホテル勤務を経て、南米を専門にする旅行会社に転職しました。いつかペルーに帰国した時に役に立つ仕事がしたいと考えたからです。大好きなペルーを日本の人に紹介する仕事はとてもやりがいを感じる仕事です。私も父と同じように、お金を貯めていずれペルーに帰ると考えていましたが、今では家庭を築き、日本でこの先も暮らしていく決断をしました。

■日本での子育てで気をつけていることは何ですか？

妻もベネズエラ出身なので、家での会話はスペイン語です。子どもたちには、「私の親はペルー人／ベネズエラ人なのに私はペルー／ベネズエラのこと全然知らない」、「私って何人なの？」、「私はなぜ日本にいるの？」など、自分のアイデンティティについて考える時がくると思います。マチュピチュや母国の家族のところに連れて行くなど、ペルーやベネズエラに触れる機会を作るようにしています。自分の中にペルーやベネズエラの部分があるということが心のどこかにあってほしいと思っています。



上村カルロスさん プロフィール

ペルーで生まれ、中学校 2 年生で来日。経済的に困難な状況で、アルバイトしながら好きな仕事を見つけた。現在は日本とペルーの架け橋として旅行会社に勤務。また、ペルー人の仲間と NPO 法人 AMIGO PROJECT を立ち上げ、代表を務める。外国ルーツ高校生を支援する NPO 法人 glolab にて理事。TBS 「世界比べてみたら」 などテレビにも出演中。



■外国にルーツのある子どもたちにメッセージをお願いします。

「家族の目標」、「家族の願い」もあると思いますが、できるだけ早く「自分の目標」を見つけて、それを大切にしてほしいと思います。そして、保護者、先生、支援してくれる団体、先輩など、相談できる人を見つけてください。また、できるだけ周りの人をよく見て、自分の進路や生活の参考にしてほしいと思います。

日本語を母語としない親と子どものための進路ガイダンス2021 in CHIBA

房総多文化ネットワークを主体とする進路ガイダンス実行委員会が主催する「日本語を母語としない親と子どものための進路ガイダンス in CHIBA」は、毎年市川市・千葉市・松戸市で開催され、日本語を母語としない保護者や子どもにとって、進路の情報を得る貴重な機会となっています。令和3年10月10日（日）に開催された千葉会場を取材してきました！

10月10日、千葉大学にて行われた進路ガイダンス。参加した生徒たちは少し緊張気味でしたが、これからの将来を真剣に考える



ポルトガル語で説明を受ける参加者

熱い想いが伝わってきました。初めに、参加者は言語別に分かれたブースに座り、通訳の方が言葉のサポートをしながら、千葉県

の高校入試制度についての説明がありました。

その後、行われた高校の先生方による学校紹介では、外国籍の生徒の数、学校で行われる行事、部活動、学校の雰囲気、授業の科目、日本語指導など各校の特色について様々な視点から紹介がありました。

高校生のOB／OGの方たちによる経験談の発表もあり、なぜその高校に進学したのか、何を勉強したのか、どのような入試を受けたかなどをインタビュー形式で答えていました。

「最初は緊張したけれど、先生も友だちも優しく学校が楽しい」、「高校に合格したらそれで終わりではない。できるだけ早く将来のことを考えて、行動して」、「受験は大変だけどあきらめないで頑張って」など先輩たちの励ましのメッセージがとても印象に残りました。

日本語を母語としない親と子どものための進路ガイダンスとは？

日本で高校進学を考えている子どもと保護者のために実施されている進路ガイダンス。高校入試制度の説明、高校教員による高校紹介、OB・OGによる経験談やメッセージ、高校教員への個別相談、進学に関する資料の提供・販売など。



OB・OGによる体験談

事務局長の時原千恵子さんにお答えいただきました

① 進路ガイダンスを始められたきっかけを教えてください。

1990年代後半、留学生ではない外国人高校生が現れ始めました。それが、家族とともに来日した子どもたちであることを知り、彼・彼女たちが抱える困難の一つである高校進学において直面する言葉の壁や情報不足を補うために、2002年に開始しました。

② 進路ガイダンスに参加された子どもたちは、その後どのような進路に進んでいますか？

高校進学後、さらには専門学校や大学へ進学・就職し、進路ガイダンスにOB・OGとして、あるいはスタッフとして戻ってきてくれる生徒もいます。参加中学生にとっては、自分の将来を思い描くことができる大切なロールモデルになっています。



事務局長 時原千恵子さん

③ 課題に感じていることはありますか？

スタッフとして初めて参加された方からは、この活動について感動・感銘を受けたとの声をいただきます。それは本当に励みになりますが、実は実行委員会のメンバーはこの20年間ほぼ同じなのです。是非、運営に新しい方々に加わってほしいということ、市・県教育委員会とさらに協働体制をとれたらありがたいです。

④ 外国にルーツのある子どもたちの教育や進学の現状について、一般の私たちが知っておくべきことはありますか？

日本人生徒の高校進学率がほぼ100%であるのに対し、日本語を母語としない子どもたち（外国籍が多いが日本国籍の場合もある）は60%前後だと言われています。

また、文部科学省の「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」（2018年度実施、2020年1月公開）によれば、日本語指導が必要な高校生の中退学率は9.6%（全高校生1.3%）、進学率42.2%（同71.1%）、就職者における非正規就職率は40.0%（同4.3%）とあり、数字からだけでも日本語を母語としない児童生徒の困難が見えてきます。

彼・彼女たちの力を伸ばし社会の中で活かしていけるような環境を作っていくことこそがお互いのためになる、という考え方に転換すべき時期ではないでしょうか。

◆多文化共生出前講座（小学生版）

@柏市立柏第八小学校（オンライン）9月8日・10日

コロナ禍で、オンラインでの実施となりましたが、柏第八小学校6年生の3クラスで、講座を実施しました。ロシアのオクサナさん、エジプトのローマニさん、台湾の范さんの3名に講師をお願いし、教室の黒板に大きなスクリーンを貼り付けて、まるで講師の先生方が教室にいるかのような臨場感のある授業でした。

授業の前半は、柏八小が取り組んでいる外国語教育の実践を兼ねて、講師の出身国について英語で質問をし、英語で答えていただき、わからないところは再度質問をしたりジェスチャーで表現したりして、何とか内容を理解しようという挑戦でした。英語のシャワーに戸惑いながらも、コミュニケーションの難しさや楽しさを実感できる時間となりました。

授業の後半は、日本語で出身国の紹介をしていただきました。講師が動画やクイズなどを取り入れてくれ、オンライン上で双方向のやり取りをしながら理解を深めました。

後日、講師宛てに「〇〇（国名）行ってみたいと思いました」、「知らないことが多くてびっくりしました」、などの感想入りの素敵なお手紙が贈られました。



◆多文化共生出前講座（小学生版）

@千葉市立幕張西小学校9月16日・17日

幕張西小学校5年生、5クラスの子供たちを対象に、パキスタンのバルニーさん、マレーシアのシェドさん、スリランカのプブドゥさん、ペルーのカルロスさん、中国の劉さんが講演を行いました。テーマは「偏見をなくそう」。無意識の思い込みや先入観と向き合い、多種多様なバックグラウンドを持つ人々を理解することの大切さを学ぶ、幕張西小学校の加藤先生、渾身の学習指導案です！講師のみなさんのジョークを交えた日本での生活エピソードや、出身国の話を聞いて、世界にはたくさんの習慣があることや、みんな知らず知らずのうちに偏見を持っていることに気がつくことができました。子供たちに喜んでもらおうと幕張西小学校の熱心な先生方、講師のみなさんが一生懸命考えてくださり、みんなが楽しめる交流授業となりました。



担当者のこだわり！

在住外国人の方は「支援対象」とされることも多いですが、ここでは多文化共生を楽しく伝えるストーリーテラーとして大活躍していただいています。

子供たちは講師とゲームをして講師の出身国に親しみ、クラスメートに自分の考えをシェアするなどの活動を通じて、世界には多様な文化が存在することを知り、世界のことをもっと知りたいと学びを深めてくれます。子供たちにとって忘れられない思い出になるよう、また外国人講師が子供たちとの交流を通じて、日本をもっと好きになってもらえるような授業を目指しています。



担当者：渡辺昭子
多文化共生マネージャー
持ち前の機動力で新たな事業も
ガンガン進めています！

◆子育てサロン @千葉県国際交流センター研修室 10月9日

初めての子育ては、日本人であっても不安が多いものですが、外国出身の保護者にとって、日本での出産・育児は母国との慣習の違いやコロナ禍で対面のイベントが減り、“ママ友”、“パパ友”を作ることが難しくなって困難が多いのではないかと問題意識から、「子育てサロン」を試行的に始めることになりました。

第1回目はアメリカ出身のお母さんとその3歳の息子さん、タイ出身のお母さんとその11歳と2歳の息子さんに参加していただきました。「保育園と幼稚園どちらに入れたら良いか？」といった悩みや、「日本語はできるけど、母国との子育てとの違いに戸惑うこともある」といった声もありました。まだ試行段階ですが、今後、“ママ友”、“パパ友”の輪を広げていけたらと思っています。



◆地域日本語教育関係者ミーティング 10月15日 【オンライン開催】

千葉県と当財団が共催で、市町村、国際交流協会、日本語教室等の各担当者や代表者がオンラインにて一堂に会し、地域日本語教育関係者ミーティングを初めて開催いたしました。

冒頭の基調講演では、国際教養大学専門職大学院の伊東祐郎氏を講師にお招きし、“千葉県の活力につなげる地域日本語教育”をテーマに、地域日本語教室の求められている役割について「居場所」「交流」「地域参加」「国際交流（文化理解・相互理解）」「日本語学習」とまとめ、その重要性を解説いただきました。

続いて、文化庁国語科・地域日本語教育推進室から国の日本語教育関連施策について説明いただき、県国際課から県の取組の紹介があり、参加者に地域日本語教育の動向について理解を深めていただきました。

最後にブレイクアウトルームに分かれ、コロナ禍においてオンラインを活用した工夫や、学校・教育委員会との連携等、日頃の活動状況や抱えている課題について参加者間で共有しました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

◆語学ボランティア講座（国際会議コース@幕張メッセ・見浜園） 10月23日

当財団が誘致・支援を行っている国際会議において、ボランティア活動を希望する方を対象に、MICE事業部が講演を行いました。国際会議でボランティアをすることの楽しさと魅力、会議出席者の属性、案内デスクでの役割などを写真で紹介し、実際の会議で使用される幕張メッセの会議場～展示場をグループに分かれて視察しました。千葉県の代表的なエクスカーション先である見浜園でのグループ散策、案内デスクを想定した外国人講師とのロールプレイなどで、コミュニケーションを楽しんでいる受講者の皆様の姿が印象的でした。海外から来県した外国の方々にきっと笑顔と信頼をお届けできると期待のふくらむ、受講者にご満足をいただいた素晴らしい講座でした。



◆災害時外国人サポーター養成講座 10月30日 【オンライン開催】

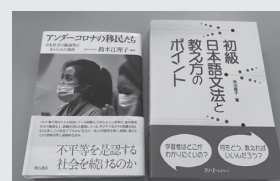
千葉県、木更津市、君津市、木更津市国際交流協会、君津市国際交流協会と、オンラインで開催しました。災害時の外国人支援の概要や「やさしい日本語」の講義を受けた後、オンライン上でグループに分かれ、外国人の避難状況の表を見て翻訳が必要な言語を考えたり、多言語でポスターを作るなどの活動をしました。リーダーシップを発揮する人、パパッと翻訳できてしまう人、アイデアをたくさん出す人などそれぞれが大事な役割を担い、有意義な講座となりました。

今後の行事予定

事業	内容	時期(予定)
日本語ボランティア・スキルアップ講座(仮)	日本語学習支援のスキルアップを図る講座	1～3月
日本語学習支援者の集い(仮)	日本語ボランティアの活動に役立つ情報の提供や、意見交換等を図るための会議	1月
外国人相談基礎知識研修(仮)	在住外国人の生活支援に役立つ、基礎的事項を学ぶ講座	1～3月
国際理解セミナー	県民に広く、国際理解を図る講座	12～3月
国際交流・協力等ネットワーク会議	民間国際交流団体や、市町村国際交流協会担当者による情報交換	1月
災害時外国人サポーター養成講座	災害時に外国人をサポートする人材を育成する講座	1月

図書の貸出について

- ①『アンダーコロナの移民たち－日本社会の脆弱性があらわれた場所』 鈴木江理子 編著／明石書店
コロナ禍で元々脆弱な立場にあった外国にルーツのある人びとがさらに困窮している。その実態や支援について、知ることができます。外国人支援に携わる方や支援に興味のある方など、ぜひお読みください！
- ②『初級日本語文法と教え方のポイント』 市川保子 著／スリーエーネットワーク
初級の日本語文法の教え方について、学習者からよくある質問や誤用の例などをまじえて分かりやすく解説されています。イラストつきで、楽しく教え方を勉強することができます。



書籍の貸し出しのほか、国際交流・多文化共生に関連する各種フリーペーパーやリーフレット等もご覧いただけます。日本の方、外国出身の方問わず、ぜひお気軽にお越しください。(検温、消毒等感染症対策にご協力ください。)

まちで 見つける 世界の扉

～四街道市編～



千葉県スポーツコンシェルジュとして
スポーツに携わるほか、日本語教師の
資格を生かして国際交流センターの
日本語関連事業も担当しています！
みなさんに美味しい情報をお届けします！



JICA千葉デスクで、JICAの千葉県の
窓口を担当しています！JICA海外協力隊で
キルギスに赴任中には、様々な異文化、
食べ物に挑戦しました。ここでは千葉県で
出会う異文化を紹介いたします！

四街道市には、約2,680人（令和2年12月末）の外国籍の方がお住まいです。その中でも、アフガニスタンの出身の方が約27%で一番多いそうです。西アジアなどの料理がとても美味しいと評判の「アリアンレストラン」さんに取材に行ってきました。

アリアンレストラン

四街道市大日にある西アジア料理のレストラン。アフガニスタンやイランの料理のほか、インド・ネパール料理なども味わうことができます。ハラル食材などを扱う雑貨店も併設されている。



お話を聞きました！

オーナーのデラヴァーさんによると、アリアンレストランは2012年5月にオープンしました。長年、四街道市で西アジアの料理を提供しているアリアンレストランには、故郷の味を求めてやってくるアフガニスタン、イラン、ネパールなどの外国出身の方のほか、中東にゆかりのある日本人や口コミで評判を聞いた人たちが訪れるそうです。一度食べたらやみつきになり、リピーターの日本人も多いとか。アリアンレストランは、食を通して人びとが西アジアを知り、“小さな国際交流”ができる、そんな場になっていると語ってくれた、気さくで優しいオーナーのデラヴァーさん、ごちそうさまでした！



インタビューに応じて
くださるデラヴァーさん

いただいたメニューはこちら！

ゼレシキボロ ◆鶏もも肉の煮込みとベリー入りのサフランライス

鶏もも肉はナイフを使わずほぐせるほど柔らかく、トマトベースのソースの味がよく染みしています。黄色いサフランライスの上に赤いドライベリーがのっているライスと一緒に頂きました。

見た目もオシャレなライスは、ベリーの酸味が良いアクセントに！馴染みのある鶏肉の料理で、エスニック料理初心者の方におすすめです。

マヒチェバガリボロ ◆子羊骨つき肉の煮込みとソラマメとデイルのご飯

時間をかけて煮込まれたマトンと、ライスにデイルが混ぜ込まれているという日本では馴染みのない組み合わせ。

ロの中で溶けるマトンは、羊肉ファンにはたまらない一品！パラパラなデイルライスは、クセになる爽やかな風味。

ゴルメサブズィ ◆ハーブ・羊肉・キドニー豆のシチューとナン

半固形の黒に近い深緑色のソースの中に豆や肉が覗いています。レモンや野菜の風味がきいています。アツアツのナンに乗せてどうぞ召し上がれ！

最初はその見た目に驚きました。一口食べて、その食べやすさにまたびっくり！こちらはぜひ、エスニック料理上級者の方へ一品！



アフガニスタン料理にトライしたい方には「Mantu（マントウ）」がおすすめ！

蒸した餃子のような「マントウ」には、サワークリームがトッピングされ、とても食べやすく美味しい一品です。アフガニスタンでは、市場やにぎやかな通りでも売られているそう。



市内にあるそのほかのエスニック食材店にもお邪魔しました。地域の外国出身の方々にとって、故郷の料理を作るのに必要な材料を仕入れる大切な場所になっていることが分かりました。日本の方も珍しい食材を求めて遠くから来ることもあるとか。取材班もたくさん買い物をしました！

四街道市国際交流協会

地域の日本人住民と外国出身の住民をつなぐ四街道市国際交流協会（通称YOCCA）。長年YOCCAで日本語学習に携わり、会長でもある小島英俊さんにお話を伺いました。

四街道市国際交流協会には、日本語学習部会、姉妹都市部会、交流部会、通訳・語学研修部会の4つの部会があり、各部会で様々な活動が行われています。外国の家庭料理を作って販売する



ワールドキッチンの様子

“ワールドキッチン”や小学校での国際理解授業など、日本人と外国人の交流を図るイベントの企画や、コロナ禍で活動が制限されているものの、長年地域に根差した日本語教室の運営をされています。また日本語教室の学習者がごみの出し方の文書の翻訳をしてくださるなど、外国人が“支援される”だけではなく、“支援者”として協力していただいているというお話もありました。それも全て“信頼関係が一番大事”という考え方で関係するすべての人と接しているからこそ。大変勉強になりました。



会長の小島英俊さん

あなたの町にある、「行ったことはないけれど気になる」エスニックレストランや、「イチオシ！」お勧めのレストランはありますか？ 次回の取材の参考にしたいので、ぜひ教えてください。

◆情報はこちらまで◆ 国際交流つうしん担当：(Email: ied@ccb.or.jp)

コロナ禍のJICA海外協力隊 in カンボジア

新型コロナウイルスの世界的な蔓延に伴い、2020年3月に世界中から約1,800名のJICA海外協力隊が緊急帰国しました。現在、感染状況が落ち着いた国では協力隊の派遣が再開しています。2021年8月末時点では25か国に125名の協力隊員が派遣され、活動をしています。その中から、今回はカンボジアの隊員のレポートをご紹介します。

2019年度3次隊 体育教育 山崎鉄平さん(館山市出身)

チョムリアップスオ！（はじめまして！）カンボジアに体育教育で派遣されている山崎鉄平と申します。本来であれば2020年3月に派遣予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で延期となり、2021年1月にカンボジアに到着しました。私の活動先は首都であるプノンペンのボントラバエク中学校という学校です。こちらの学校には、体育授業の普及、発展に寄与するべく派遣されました。2021年7月時点ではカンボジアの学校は全ての学校は対面授業の代わりにオンライン授業が行われています。

しかし、体育授業に関しては授業の優先度が低く、さらに授業には動きが伴う為、オンライン授業は行われていません。その代わりに同僚の先生と相談しながら学校の環境整備を行っています。生徒が来ない間も学校環境の維持をしなければならないので、学校の草刈りや庭の掃除等を行っています。

また、初めて学校の敷地内を見学した時に、ほとんどの体育設備が使用出来ない状況になっていることに気がきました。ネットがないバレーボールコート、リングが壊れたバスケットボールコート、雑草に埋もれてしまっている鉄棒といったように、体育の授業が出来たとしても、満足のいくような授業とは程遠い現状があります。



日本の小学校とオンラインで繋いで授業を開催したりもしています。授業ではカンボジアで売っている食べ物や飲み物を実際に見せたり、現地の街の現状や学校の様子を紹介したりしたのですが、子どもたちが興味をもって聞いている姿に嬉しくなりました。僕は千葉県館山市出身なので、この2年の期間で地元の学校等ともオンラインで繋がれたら嬉しいです。

最後に、コロナ禍での海外生活ということもあり、家族やお世話になった先生方、友人から心配されることがありますが、自分なりに楽しみを見つけて、前向きに生活を送ることができています。健康や安全に留意しつつ、今後も幅広く活動を行っていこうと思います。

お気軽にお問合せください♪

千葉県国際交流センター内 JICA千葉デスク

国際協力推進員 木村 明日美

TEL：043-297-0245 / 090-4024-0441

FAX：043-297-2753 E-mail：jicadpd-desk-chibaken@jica.go.jp





世界からようこそ千葉県へ!

ウクライナ



※外務省ホームページより引用

ウクライナ出身のチェクホフスカ・ユリヤさんは現在大学生で、ウクライナ語、英語、ロシア語、ドイツ語と日本語を自在に操る聡明な女性です。いつも笑顔を絶やさず明るいとてもチャーミングなユリヤさんに、ウクライナについて教えていただきました。

What not to love about Ukraine?

私が生まれた美しい国、ウクライナは今、変革の時を迎えており、より良い未来に向けて様々なものが新しいシステムに移行しています。全体として所得が低い国ですが、その潜在能力は目を見張るものがあります。これから、みなさんにウクライナについてお伝えします。もし、ウクライナに行く機会があれば、私のおすすめを参考にしてくださいね。

Zaporizhya Sich (ザポロージャ・シーチ)

もし私が今ウクライナにいたら、キエフ、リヴィウ、ハリコフ、オデッサなどの大きな都市に行った後、間違いなく南部にあるザポロージャの隣に位置する島“ホールツィツァ島”に行きたいと思います。

一説によると、この島は、強く自立したコサック国家の歴史が始まった場所とされています。コサックは自由な人々で、中世のウクライナがまだバラバラであった時代に、自ら繁栄した国を作ろうと立ち上がり活動しました。

彼らは、魚のニシンに似た髪型をしており、剣のついた太いズボンを履き、ホパーク（ウクライナの伝統舞踊）を踊っていました。彼らは現在でも大変人気があり、コサックに関する歌は今でも歌い継がれているし、フェスティバルの時などは、彼らがかつて着用していたような衣装を着る人がたくさんいます。ホールツィツァ島に行くと、アーチェリー、乗馬、剣術や何世紀も前にコサックたちがしていたアクティビティに挑戦することができます。



Reply of the Zaporozhian Cossacks to Sultan Mehmed IV of the Ottoman Empire (I. Repin, 1891)

クレーヴェンの恋のトンネル

そろそろ歴史から離れて自然についてご紹介しましょう。

私は、ヴォルィーニ地方の出身ですが、この地方のクレーヴェンという町にある世界的に有名な「恋のトンネル」があることを大変誇らしく思っています。この「恋のトンネル」は、森の中に電車が通ることによって自然に形作られたもので、5 kmほどの長さがあります。カップルと一緒にトンネルを歩くと幸せになれるという言い伝えがあります。



“Tunnel of love” (恋のトンネル)で写真に写るユリヤさん

“Golden Stone”

といわれる琥珀をお土産に買うのもお忘れなく！

もし建築物がお好きなら、ウクライナ西部にある美しいチェルニウツィー国立大学がおススメです。ここはオクスフォード大学の豪華さにはわずかに及びませんが、活気のある学生の街で、多くのカフェ、レストラン、雰囲気のあるバーなどを楽しむことができます。



<https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=27343763>

ウクライナは広いので、全てをお伝えすることは難しいです。英語や日本語が話せる人は多くありませんが、みなさんがウクライナに行かれた時には、ウクライナ人は身ぶり手ぶりで優しくサポートしてくれるはずです。結局、言葉よりも笑顔が大切ですね？

Instagram (https://www.instagram.com/chiba_international_center/)、Twitter (https://twitter.com/chiba_ccb_ic) 始めました！「千葉県国際交流センター」で検索して、ぜひフォローしてください。



公益財団法人 ちば国際コンベンションビューロー 千葉県国際交流センター

〒261-7114 千葉市美浜区中瀬2-6 WBGマリブイースト14F

TEL:043-297-0245 FAX:043-297-2753 E-mail:ied@ccb.or.jp

<https://www.mcic.or.jp/へgo!>

センター事業の紹介、最新ニュース、講座やイベントなど役立つ情報を掲載。

年3回発行
(7,11,3月)